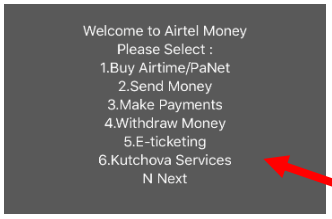
マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院

【携帯電話】ここ来るまではマラウイに携帯電話を持った人はあまり居ないだろうと思っていましたが、意外とそうではありませんでした。さすがにスマートフォンを持っている人は少数ですが、通話が出来るだけのタイプの携帯は多くの人が利用しています。マラウイ国内には大きく２つの携帯会社があり地域の電波状況に合わせて使い分けているようです。マラウイで売られている携帯は中国の製品が多くダブルシムタイプが大半を占めています。（ダブルシム＝二つの携帯番号が所有できるため、二つの携帯会社の電波を使い分ける事ができる）日本の携帯の様に住所氏名を登録するのでは無くプリペイド方式の先払いです。通話料金はスクラッチ式のカードを購入し携帯電話にチャージして使います。実はマラウイの携帯電話の仕組みには日本より進んでいる部分もあるのです。それは、携帯電話からの操作で電気料金や水道料金の支払い、さらに友人間の送金も可能です。携帯電話の番号にお金を管理できる口座が紐づいており、銀行口座を全員が所有していないマラウイでは携帯を用いてのお金のやり取りは主流です。簡単に言うと携帯電話の番号にコネクトした電子マネーの様なものです。街中には多くの携帯ショップ（プリペイドを買ったり口座にチャージできるお店）があるのでマラウイ人はこまめに購入し使用しています。基本料金等は発生しないので電話を受けるだけであれば無料で携帯電話を保持する事が可能です。普通に使用していると日本とマラウイでの使用料金はほとんど一緒ぐらいです。

奥の赤いボックスや、手前のパラソルの女性からスクラッチ購入



携帯からお金の操作するときのメニュー画面

スクラッチ

【暦】マラウイ人は時間や日付の感覚が日本より鈍感です。職のあるオフィスで働くような人は、今日が何日なのか把握していると思いますが、自給自足しているような農村地帯の人たちには暦などあまり関係ないのかもしれません。そのせいか、マラウイ人には年齢を知らない人も珍しくなく、あまり歳を取らない方もいるようです。そのため生年月日と年齢が一致しない事もよくあります。その他にも奇妙な事にマラウイ人は昔のカレンダーを外そうとしません。ポスター感覚なのか随分昔のカレンダーでも大事にとってあります。また、マラウイ隊員の有志によりカレンダーを作ってくれているのですが、そのカレンダーを持っていると求める人が殺到します。（他人でも誰でも）ですので５Ｓを取り組んだ部署にご褒美代わりに配布しているのですが、そんなカレンダーでさえもマラウイではとても喜んでくれます。

【サトウキビ】最近は、道歩く人の多くが片手にサトウキビを持って歩いています。豪快に歯でむしり、男性女性問わず口に頬張っています。道端に積み上げられ一本５０～１００クワチャ（約８～１５円）で売られています。マラウイ人にとっても安価なサトウキビは人気です。一本が長いので複数人でシェアして食べている人も多いようです。私が、日本に住んで居た頃はサトウキビをそのまま食べたことが無かったので日本のサトウキビと味の比較ができないのが申し訳ないのですが、ほどよい甘味と豊富な水分で喉の渇きを癒してくれました。しかし、硬い皮を剥ぐのは相当大変ですので私は普段食べていません。また首都ではサトウキビとレモンを絞ったジュースを販売しているお店もあり、シンプルですがさっぱりしていて美味しいです。

最近は少し運動を始めました。近所の道はボコボコしてるし、マラウイ人の視線が気になる事から走るのを諦めておりましたが、現在は縄跳びに力を注いでいます。学生時代は空手の練習の一環で縄跳びをしていましたが、久しぶりにするとかなり下手になっていました。でも、室内がコンクリートである事や人目や時間を気にしなくていい事は好都合です。